

ホーム名：まかみグループホーム翔裕館 摂津ユニット					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念の唱和をする事により、意識の統一と質の向上に努めています。又、各ユニットでスローガンを掲げ、共通認識を持ち取り組んでいます。	各ユニット単位に理念を設定されている。管理者と職員は、理念を理解し、日々のケアの中で、理念の具体化に取り組んでおられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のいきいきサロンや運動会を始め、施設での行事秋祭りや消防訓練の参加を声掛けし、地域との交流を深めています。	地域との交流を深める取組みの中で、こども110番の家、災害支援型の自販機設置、消防署との共同非難訓練等地域の安全安心を担う場所となっている。	継続して、地域との連携をさらに深めるために職員による地域との交流も大事かと思われる。職員からも地域連携活動の様々なアイデアを募り、それに基づいた計画を立案、実行し、問題点の洗い出しをして修正のうえ再度計画を立て直し実行する、というサイクルで活動されてはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	4月に高槻市長寿生きがい課を講師に認知症サポーター養成講座を開き、地域の方と認知症の理解を深める機会を持ちました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、運営状況・フロアでの生活状況や取り組みを報告し、地域の方や包括支援センターとの情報交換に努めています。又、入居者の地域交流が図れるよう意見を聞く等行い、サービスに反映しています。	議事録フォーマットを用意する等会議運営の効率化や職員の事務軽減にも力を入れられており、会議での意見交換の時間が十分に取れるよう工夫されている。	継続して、会議運営の効率化と職員の事務負担を軽減されながら、職員自ら日々のケアに対する思いを参加者にアピールする場としても活用されることにより、職員のやる気の維持向上につながるのではないかと思います。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の議事録を直接福祉指導課に提出する際、情報交換の場としています。	運営推進会議資料等見やすいように作成する等工夫を重ね、事業所側から市への積極的な連携を図られている。又、市主催の防災研修等に積極的に参加され、関係性を深める努力もされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	事業所で開催される身体拘束や認知症の研修を通じて学ぶ機会があり、研修の出欠に関わらず全職員に報告書を提出してもらっています。日々の認知症ケアの中で身体拘束をしない、尊厳や人権に配慮したケアの取り組みを心がけています。	外部研修だけでなく、事業所内での研修にも力を入れられており、職員は、研修が座学に終わらないよう研修報告書を提出する等研修結果を実践に活かせるようにされている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所で開催される虐待防止の研修を通じて学ぶ機会があり、スピーチロック等不適切な対応がないよう特に言葉には十分気を付けて対応しています。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の研修に於いて、成年後見人制度を学ぶ機会があり、又、玄関にパンフレットを置く事で家族への案内をしています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重説にてサービス内容・料金等の説明を行い不安な点等について、その都度具体例をあげ説明しています。少しでも不安が軽減し利用が開始できるように取り組んでいます。		
10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議やサービス担当者会議以外にも、面会時に意見や要望を聞いています。又、玄関へ意見箱を設置しております。また、プライバシーにおいても配慮しています。	利用者や家族が、意見、要望、不満等を表せる機会や配慮が行なわれている。運営に反映させるしくみとして委員会を設置し、組織として対応できるよう態勢を整えておられる。	
11	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	毎月のユニット会議やカンファレンスだけでなく、職員は居室担当や各委員・係の役割を持つ等意見交換できる環境を作っています。また、日々のケアや相談は個別にて対応をしています。	各種会議以外に各種委員会の設置や係による役割と責任を明確化し、職員の意見が運営に反映できる態勢を整えておられる。	各種会議での発言以外に職員から提案書という形で、運営への意見を募ることを考えてみてはどうか。書面を作成することにより意見が整理され、より具体的な意見になると思われる。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がそれぞれの力量に合わせ目標を持ち、半年に一度自己評価と適宜面談する事で職員の配置に反映しています。又、職員間のコミュニケーションを大事にする事でお互いに学び合う関係性を築いています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じ、外部での研修の機会を提供し、研修報告書の提出を必ず行い、伝達研修も実施し職員のスキルアップに繋がっています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度同法人内の他施設の管理者間による部会を通じて情報交換し、よりよいサービスが提供出来るよう取り組んでいます。		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約前の面談で本人の情報を収集し、不安や困りごとが少しでも少なくサービス利用が出来るよう関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談に於いて、家族や本人に対する思いやグループホームへの要望を確認し、グループホームでの支援について共に考えていく事が出来るよう関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談で得た情報をもとに、本人や家族が必要としている支援について、管理者及び計画作成者・職員等で話し合い支援方法を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で共に役割を持ち、支え合い暮らせる環境づくりに努める事で、信頼関係を築く事が出来る様に支援しています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない関わりや関係性を重視し、毎月の手紙や日々の様子を伝える等、連絡を密に取り、家族と共にサポートする事で本人を中心とする関係作りに取り組んでいます。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力の元、買い物や友人・親戚の方の面会等関係が途切れない様支援しています。	ご家族は、いつでも予約なしに事業所を訪れることができる。外出も特に制限することなく、本人の現状をご家族と連携し、外出先等本人の意向も尊重されている。	外出時は、職員とご家族が触れ合う場としても責極的に活用することができると思われる。書面では伝わりにくい本人の様子や職員自らの利用者本人への思いをご家族と歓談することにより、ご家族と職員との関係性もより深まると思われる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で入居者が孤立しない様、職員の関わりや入居者同士が協力し作業できる様支援しています。又、座席にも配慮し談話が出来るような関係・雰囲気が作れるよう環境整備しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、他施設へ行かれた際、相談員より入居者の相談や助言を行っています。又、家族からの問い合わせがある時は対応する体制を整えています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のカンファレンス・モニタリングでは24時間シート活用し、入居者目線で関われるよう努力しています。又、日々の気づきや家族からの情報・表情や会話等から意向をくみ取り、個々に応じたサービスに努めています。	認知症を持つ人を一人の“人”として尊重し、その人の視点や立場に立って理解してケアを行う認知症ケアの考え方実践のため、センター方式による評価を行い、活用し、どのように暮らす事が本人にとって最良となるのかの把握に努めておられる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	センター方式・24時間シートを活用し、家族から本人の生活歴や生活環境・生活リズム等の情報に努めています。又、昔の様子についても日々の会話の中や面会時に家族様より情報を得ています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしについて、本人の体調やリズムに合わせています。その中で本人の能力に応じ自立支援を目指しています。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	往診医や、看護師との連携・意見、退院時にサービス担当者会議で意見を聞き、家族様には面会時に要望を確認する等で、その要望をケアプランに反映させ、プラン交付時に同意を得ています。	本人の状況が日々変化していく中で、介護計画にタイムリーに反映することは難しいかと思われる。日々の変化を点ではなく、点と点を結ぶ線としてわかるようなしくみを職員の方から意見を出して頂き、これを介護計画を見直すベースの1つとして考えてみてはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はケアプランに添って記入し、特変や些細な変化も必ず記入しています。毎月のモニタリングや、カンファレンスで得た情報をケアプランに反映しています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	フォーマルなケアのみでなく、ご利用者様の要望を基に、個別の支援させて頂くだけでなく、近隣との交流を含めインフォーマルな関係を築けるよう努力しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのいきいきサロンや運動会、保育園児とは運動会や施設行事への参加を声掛けし、ボランティアとの交流にも力を入れています。	
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回往診時には 主治医に看護師より現状報告、適切な指示を仰いでいます。また、協力病院との連携や専門医の受診が必要な際は、職員付き添いで現状報告し対応の相談を行っています。	受診状況をご家族と施設側で、タイムリーに正確に共有することが本人へのケアを行なう上で大事になるかと思われるが、難しい場合も多いかと思われる。例えば、インターネットをうまく活用（フェイスブックやLINE等での情報発信など）し、ご家族と施設側が、受診状況を共有できれば、ケアサービス向上にもつながると思われる。

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	基本は週1回の往診時のみであるが、24時間365日オンコール、緊急時には看護師が駆けつけてくれる体制を整えております。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、介護サマリーを基に情報提供しています、協力病院が近く頻繁に面会をし、病棟看護師との情報の共有、退院時もアプローチを密にし、早期退院に努めております。		
33 12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約時に、重度化や看取りの説明を行っています。又、看取りや重度化の研修を行い、職員に周知しています。	重度化や終末期の対応のあり方について、家族の意向と事業所の対応との認識違いがないよう入居時から本人やご家族への説明が行なわれている。事業所は、職員に、重度化した場合や終末期を迎えた場合の対応研修を行い、対応できるチーム体制を整え、維持する努力をされている。	施設で対応できることは限られるため、1つのチームとして対応することが職員の負担軽減とケアレベル維持につながると思われる。職員自ら考え行動する力が必要にもなると思われるので、職員自ら編成と役割を考えたチームを立ち上げて取り組む方向性を期待したい。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回AED講習を受講し、急変や緊急時の対応を研修しています。又、随時不安な点等がある場合は看護師へ相談し、緊急時に対応できるようにしています。		
35 13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署指導のもと、昼間・夜間の設定で避難訓練を実施しています。訓練には、入居者や地域の方へ声掛けし、避難場所・経路・誘導方法・対応について実施し、職員の行動の再確認を行っています。	昼間、夜間での災害を想定した実践的な訓練を消防署と連携し、実施されている。職員は、いざという時に慌てず確実な避難誘導を訓練されている。地域の協力体制を築くため、運営推進会議等で、避難訓練へ参加を呼びかけている。	地域の避難拠点として、設備面も充実している状況のため、地域と連携した避難訓練実施以外に地域への説明や見学をしてもらう等を企画してはどうか。この企画を通じて避難訓練参加に向けての関心が高まるのではないかとと思われる。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修に於いて、接遇やプライバシーの保護を学習し、特に言葉遣いには気をつけ、声掛けを行っています。又、居室へ入る際は必ずノックしてから入室を徹底してます。	日々のケアの中で、一人ひとりのプライバシー確保を徹底し、人格の尊重を大切にされている。個人情報保護の観点から、施設内で知り得た情報の口外も禁じておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リビングや居室等、入居者様の好きな所で過ごして頂いています。又、食レクや外食に於いて、入居者の食べたい物を選んでもらえるような声掛けを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や散歩等要望に添えるようにしています。要望に添えない時には説明し納得して頂き、時間をずらす等の対応をお願いしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や更衣時に、ご利用者様の趣味趣向を選べるよう支援しています。また、化粧や髭剃りも可能な限り自分でできるように努めることで、その人らしさを支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳・下膳・盛り付け・洗い物・片付けと入居者の能力に応じて一緒に行っています。入居者の嗜好を取り入れた食事の機会を提供しています。	利用者と職員が共に楽しみながら、食事を取り、お互いに協力して配膳や片付けが行なわれている。食レクや近くの飲食店での外食を通じて食事を楽しむ機会も提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	バランスの摂れた食事で、野菜や魚が多く、入居者様の食べやすい食事形態・量を個別に対応しています。又、月に1度体重測定を実施しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回歯科往診の機会があり口腔内清潔保持の指導を受けています。毎食後に口腔ケアの声掛け、自歯の方には歯間ブラシの声掛け・見守りを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の支援・誘導・が必要な入居者には自尊心がきづかないよう配慮を心掛けております。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その変化に応じた排泄支援を行なっておられる。又、排泄時の羞恥心や不安を軽減する配慮もなされておられる。	排泄パターンを把握しての介助は、ひとり一人の変化を把握しながらのケアになるかと思われる。日々の変化を点ではなく、点と点を結ぶ線としてわかるようなしくみを職員から意見を出して頂くことにより、排泄パターン把握の1つになるのではないかと思われる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促すだけでなく、運動や散歩・入浴の際腹部を温める等の対応をしています。トイレではウォシュレットを使用し、排便をうながせるよう心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴では、曜日・午前・午後の時間を可能な限り入居者様の要望に合わせています。夏場はシャワー浴を一日増やし、清潔の保持が出来るよう支援しています。	一人ひとりの意向にそった入浴支援が行なわれている。又、羞恥心や不安の軽減等本人の心情を察した配慮を大切にされている。その結果、入浴が苦手の利用者も入浴を楽しめることができるようになった方もおられる。	入浴が苦手な利用者が入浴を楽しめるようになるまでの職員の行動は、施設の財産とも言える。これは利用者の施設への愛着を高めることにもつながるため、責極的に運営推進会議や市との連携において報告されることを期待したい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中居室やソファにて、入居者様それぞれのペースにて過ごしてもらっています。日中活気的な生活が送れるようレクや体操を取り入れ、夜間の安眠に繋がっています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服チェック表は職員が分かる様詰所にファイルを設置しています。内服の変更がある際は、その都度記録、申し送りを徹底しています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩・レク・体操・ボランティアとの交流等ケアプランに組み込んで支援し、入居者の出来る能力を支援・援助しています。		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的に外出し地域の方との交流を図っています。職員との外食や駐車場での洗濯物干し、ドライブ・行事等で季節感を感じてもらえるよう支援しています。	一人ひとりの希望にそった外出計画を立てておられる。又、日常的な外出支援として、本人に意向や体調に注意し、職員と近隣への外出を行い、気分転換やストレス発散ができるようにしておられる。	利用者と職員が、近隣への外出時、本人の意向も踏まえながら、これまで行かれていない場所に行かれる機会を増やされてはどうか。新たな気づきや楽しみが増える可能性があるのではないかとと思われる。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する方は現時点ではおられませんが、買い物の際には自身で払ってもらえる等の支援をしています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば使用して頂けるよう対応しています。友人や家族との関係を切れないう支援しています。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で作成し、月毎の飾りで季節感を感じて頂けるよう配慮しています。リビングには温湿度計を設置し、快適に過ごせるよう調整しています。ソファでくつろげる空間や椅子はクッション等で高さ調整しています。	利用者が居心地よく、くつろいで過ごせる共有空間として、生活感や季節感を感じられる家庭の雰囲気が演出できるよう職員が日々、考えておられる。	居心地のよい共有空間づくりに職員以外に地域の方から意見やアイデアを頂き、取り入れてみてはどうか。地域との関係性がより深まることにもつながるのでないかとと思われる。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにソファ設置し、他者や職員の目を気にせず過ごせるスペースを提供しています。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた茶碗・箸・コップを使用していただいています。居室には家族の写真・使い慣れたタンスを置くなど、安心して過ごしていただけるよう支援しています。	利用者が居心地よく、安心して過ごせる居室として、本人や家族の意向を確認しながらその人らしく過ごせるよう本人の趣味、個性や歴史が表現できるよう配慮されておられる。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分かる様手作りの表札を設置。廊下の手すりを使用したり、座席位置も自身の居室に近い場所にす等配慮しています。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいの ③職員の3分の1くらいの ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいの ③家族の3分の1くらいの ④ほとんどできていない